

「政治学入門」授業改善の試行錯誤 —「苦手意識」の壁と対峙して—

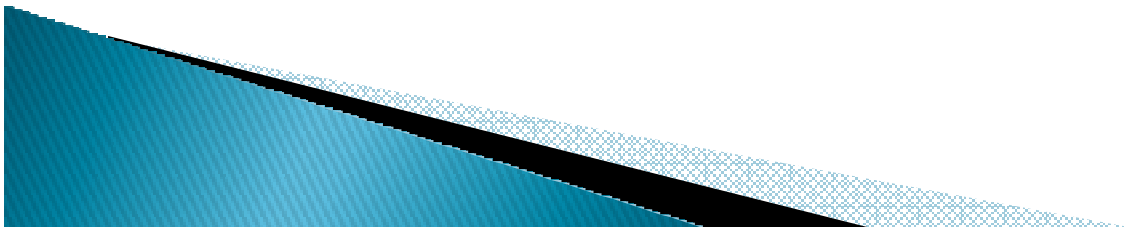
JFFFパネルディスカッション 「授業アンケートの明るく、楽しい活用事例」
(2013年6月15日)

創価大学・学士課程教育機構 准教授 山田 竜 作

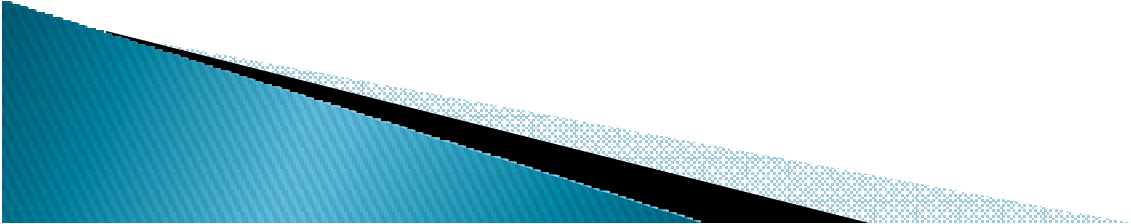


CONTENTS

- ▶ 1. 自己紹介
- ▶ 2. 「**政治学入門**」担当にあたって
- ▶ 3. 2012年度前期を担当してみても
- ▶ 4. 後期の試行錯誤
- ▶ 5. 初年度を終えて



1. 自己紹介

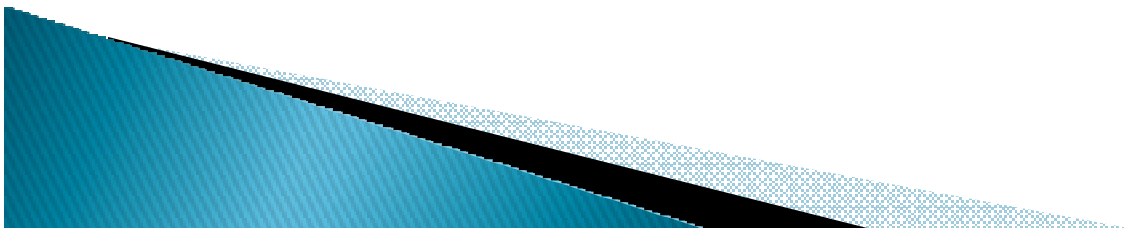
- ▶ 1967年 福島県いわき市 出身
 - ▶ 日本大学 国際関係学部 卒業
 - ▶ 英国シェフィールド大学 Ph. D. コース修了（政治理論専攻）
 - ▶ 八戸大学 商学部 専任講師、
日本大学 国際関係学部 准教授等を経て
 - ▶ 2012年4月より、創価大学 学士課程教育機構 准教授
 - ▶ 専門分野： 政治理論（現代民主主義理論）
政治思想史
現代社会論
- 

2. 「政治学入門」担当にあたって①

- ▶ 前任校では担当していなかった
- ▶ 全学部の学生対象の共通科目（2単位、前期と後期）
- ▶ 指定された教科書：
加茂利男ほか著『現代政治学[第4版]』（有斐閣アルマ、2012年）
- ▶ 多くの政治学者が頭を抱えるであろう「政治学教育」
 - 学生の「政治嫌い」「政治離れ」
 - 「面白い」テキスト作成・・・どの程度の効果が？
 - 伝統的に、典型的な「講義」科目
 - 多くの受講生は、政治学が専攻ではない
 - しかし、「よき市民」になるために必要な科目のはず

2. 「政治学入門」担当にあたって②

- ▶ 2012年前期の授業開始時、学生に尋ねると…
 - 政治について理解したいと思う(関心はある)
 - しかし、正直「とっつきにくい」(心理的ハードル)
- ▶ 山田なりに考え(てき)たこと
 - 政治について一般に流布しているイメージを、いかに「疑わせる」か
 - 小学校～高校までに持ってしまった思い込みを、どこまで崩せるか
 - 「政治学」は「政界学」、か？
 - 「政治」は「議事堂」や「役所」の中にあるもの、か？
 - 「自由主義」と「民主主義」は似たようなもの、か？
 - 「民主主義」とはもっぱら「選挙」や「多数決」、か？

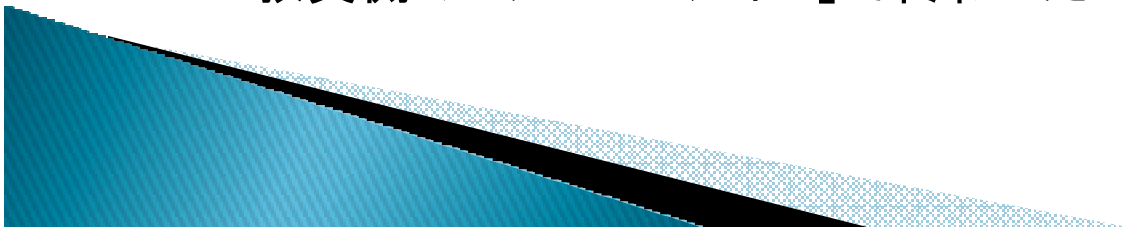


3. 2012年度前期を担当してみても

- ▶ 履修者(最終確定人数):67名

- ▶ 直面した問題:
 - ①15回では終わらない教科書
 - 1つの章を90分で語りつくすことは、不可能
 - ②「常識を疑わせること」の難しさ
 - 大学の政治学を学んでいなくても書ける答案の多さ
 - ③授業アンケート結果
 - 「知的興味が高まった」:73%
 - 「苦手意識を克服できた」:10.5%

⇒教員側の「ワンマンショー」で終わった・・・?

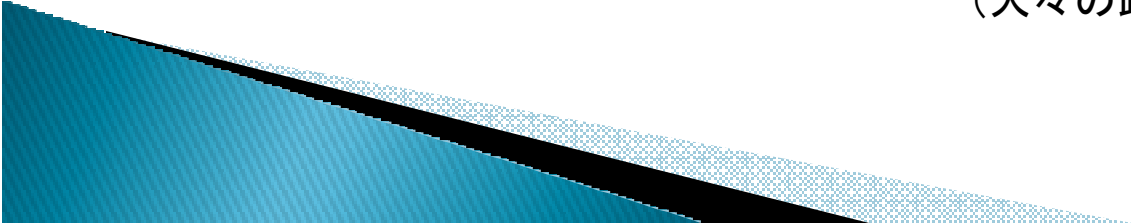


4. 後期の試行錯誤①

▶ シラバスに若干の手を入れる

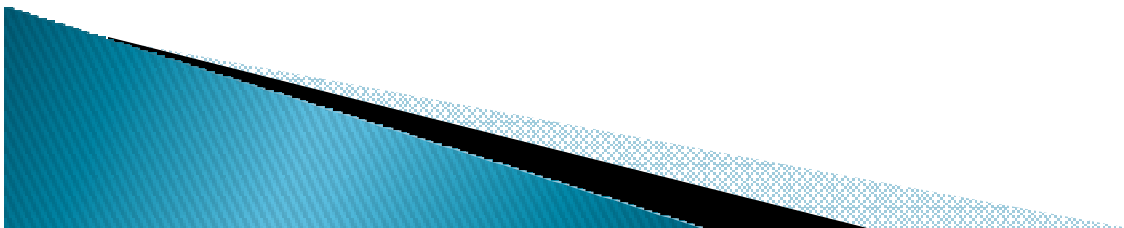
特に、「授業計画・内容」の書き直し
教科書の目次を列挙するのではなく、
何が授業の論点かを自分の言葉で示す

例:

- 第2章「政治体制と変動」 → 「自由民主主義体制とは？」
(自由主義と民主主義はイコールではない)
 - 第3章「政治、経済、福祉」 → 「国家による福祉は当たり前か？」
(大きな政府か小さな政府か)
 - 第4章「政治制度と政治過程」 → 「代表されているのは誰か？」
(公式のルートでは代表されない「声」)
 - 第7章「政治意識と政治文化」 → 「政治に参加する人間は理性的なのか？」
(人々の政治意識と参加)
- 

4. 後期の試行錯誤②

- ▶ 全15回の講義内容をパワーポイント化するにあたり・・・
 - 教科書の内容を機械的にスライド化するのではなく、自分なりに再構成
 - 毎回、冒頭に、「今日の授業の目的」を明示
 - 毎回、最後に、次回までの予習課題も明示
 - 末尾に、教科書以外の参考文献一覧
 - 講義後、ポータルサイトに UP

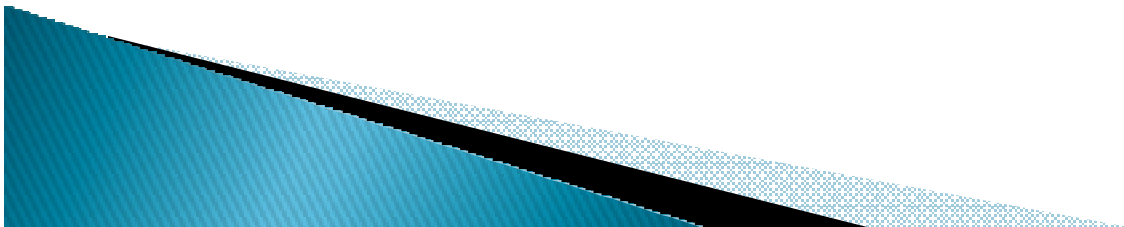


4. 後期の試行錯誤③

- ▶ ある学生からの要望に応じ、ディスカッションを試みる

第5回目の「**国家による福祉は当たり前か？**」(第3章)について
(折しも、格好の教材になるアメリカ大統領選挙)

⇒シラバス作成時に計画していたわけではないので、
事前に十分な仕掛けができず、うまく行かず



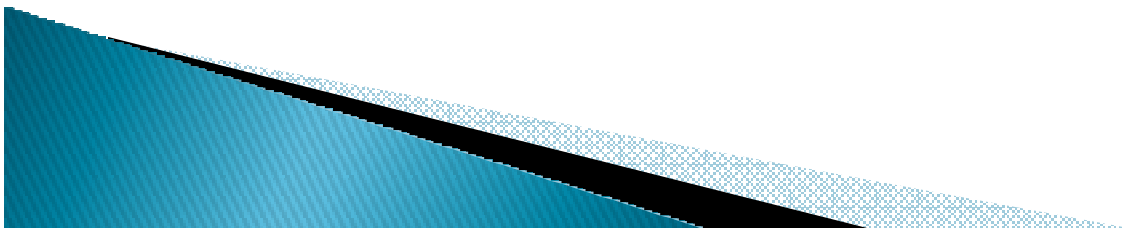
※参考 第5回目の開始時スライド

▶ 今日の授業の目的

「国民に福祉を提供するのは、国家の当然の責任だ」と思いがちだが・・・

- ・福祉国家がどのように行き詰っているか
- ・福祉国家そのものを批判する潮流があるが、それはどのようなものか

について、最低限のことを理解する



※参考 ディスカッション時の配布資料

2012年度 政治学：政治学入門（後期）
第5回授業（10月17日）補足資料

2012年アメリカ大統領選挙に見る、福祉をめぐる論点

山田 竜 作

失業率8%、3年連続で1兆ドルもの財政赤字

民主党・オバマ（リベラル）

◎連邦政府の役割

- ・国民にセーフティネットを提供する責任

◎雇用・失業

- ・政府は雇用創出のために重要な役割を果たすべき

◎税金・財政赤字

- ・国の赤字削減のためには、増税や税制改革が必要
- ・中間層にでなく、富裕層に増税すべき

◎医療保険制度改革

- ・個人に対して、健康保険の加入を義務づける

共和党・ロムニー（ネオ・リベラル）

◎連邦政府の役割

- ・経済活動や社会生活において、極めて限定的な役割のみ果たすべき
(政府規模を縮小すべき)

◎雇用・失業

- ・自分は、民間部門（企業）での経験を生かして雇用を創出する
- ・そのために、民間部門に対する政府の干渉を減らすべき

◎税金・財政赤字

- ・増税よりも歳入をカットして、国の赤字を減らすべき
- ・経済的成功を理由に富裕層に増税するのは、まるで「罰」だ

◎医療保険制度改革

- ・米国民の大多数が個人への加入義務づけに反対しているのだから、改革を撤回すべき

参照：CNN.co.jp ウェブサイト

http://www.cnn.co.jp/special/us_election/campaign-issues.html

4. 後期の試行錯誤④

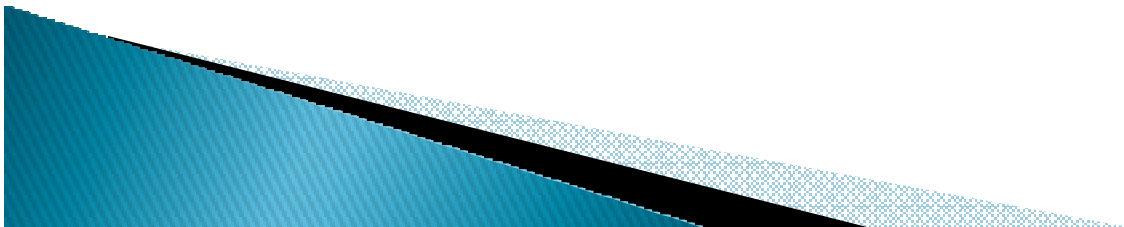
試行錯誤の果てに——

- ▶ 履修者(最終確定人数): 105名

授業アンケート結果

- 「知的興味が高まった」: 84.9% (11.9%改善)
- 「苦手意識を克服できた」: 3.8% (6.7%悪化!)

壁は厚かった・・・



5. 初年度を終えて①

▶ アンケート結果をどう「解釈」するか？

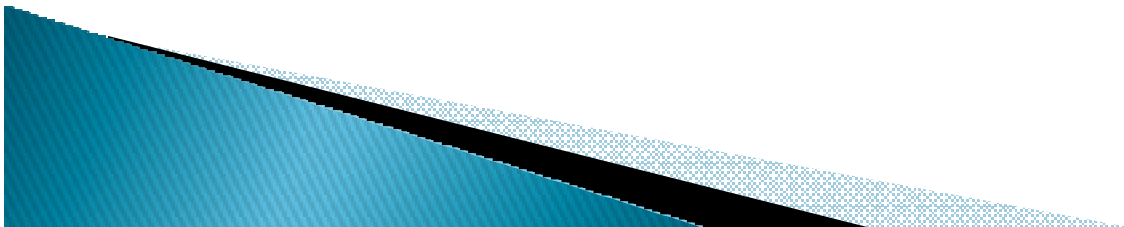
① ある意味では、苦手意識も「健全」か

- 答えの出ない問題を扱うことが多い政治学
- 授業を受けただけで「得意分野になった」と思う方が、危険？

② 心理的ハードルをどう考えるか

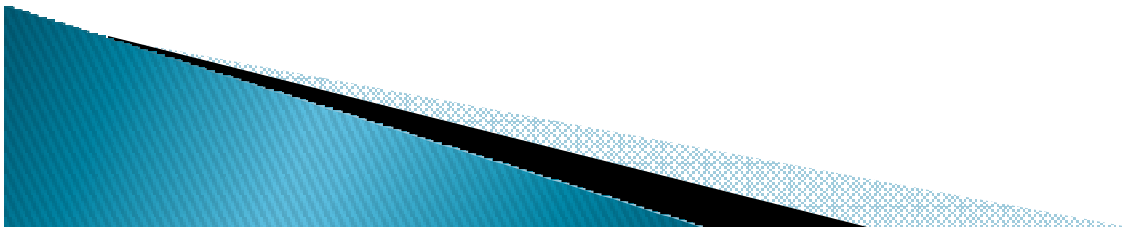
- 政治に必ずつきまとう「強制力」や「対立」
- 何と何が、誰と誰が「対立」しているのかは、複雑
・・・説明すればするほど、学生から「難しい」と思われる？

⇒ 学生がもともとどんな思い込みを持っているか、
常に教員側が意識しながら授業するよりない？



5. 初年度を終えて②

- ▶ 2013年度前期、現時点での履修者：96名
- ▶ 懲りずに試行錯誤
 - 「民主主義」と聞いて何をイメージするか、事前に10点挙げてこさせ、第2回目の授業内で学生同士で意見交換させた
 - 授業中に十分説明しきれない点について、教科書の内容を要約させ、ポータルサイトを通じて提出させている(日常点として計算)



THE END

ご清聴有難うございました

